

地エネ新エネ やっています

蓄熱でハウス暖房費抑制

ひょうろぐ経済

矢野 直達さん(76)宝塚市

ヤノ技研(宝塚市)が製造・販売する「エネバンク」は、農業用ハウスの暖房費を削減する蓄熱材です。昼間に吸収した太陽熱を夜間に放出して温度が下がりにくいのを抑えます。全国の約100カ所で導入されています。

冬のハウスでは、栽培する野菜や花が寒さでダメージを受けやすい。石油の暖房機で加温していますが、エネバンクは液体から固体に変わりながら

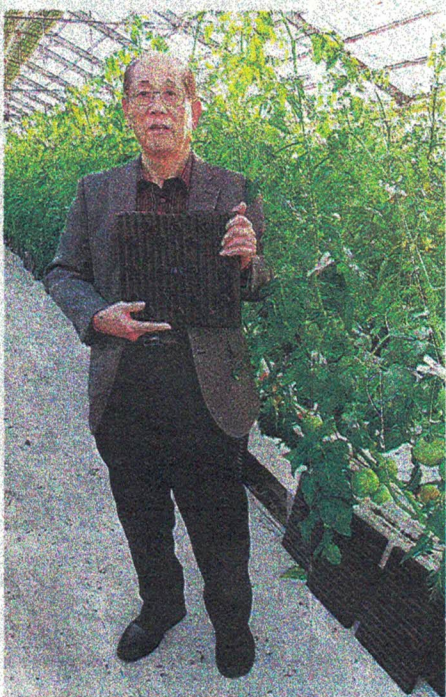
農作物の生育も促進

クを導入したハウスでは暖房費を約20%節約しています。物質が固体から液体、逆に液体から固体に変化する温度を融点、凝固点といいます。水だと0度ですが、エネバンクはこの物質が変化する際に生じる熱を利用した製品です。

夜にハウス内の気温が下がるとき、エネバンクの蓄熱材は液体から固体に変わりながら

大手機械メーカーで住宅用蓄熱空調システムを担当。退職後の2002年にヤノ技研を設立した。エネバンクは融点が約87度から零下約20度までの製品がある。

TEL 011-841-1111
FAX 011-841-1111
E-MAIL info@yano-techno.com



ハウスで栽培するトマトの根元に並べる蓄熱材「エネバンク」を持つ矢野直達さん(兵庫県稲美町)

(辻本一好)

3・3平方メートルあたり5枚のエネバンクを設置します。根元に置いたり、つり下げたりするだけで手がかかりません。夏は太陽熱を吸収して室温の上昇を抑制し、ハウス内の窓の開閉作業を減らせます。エネバンクを置くことで農作物の生育がよくなるのも大きなメリットです。

農業は石油頼みの産業になっています。価格が上がったときは脱石油の技術に関心が集まりますが、下がると関心が薄れる。長期的な視点で導入してもらえたらと思います。